令和4年度　大田区立東調布中学校　自己評価　報告書

令和5年3月1日

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	生徒アンケートで 「人のいやがることをしたり、言ったりしていない。」 の肯定的回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	3	【これまでの取組】 ・ほぼ毎時間、ICTを活用している。 ・ICTの活用については、日頃から試行錯誤しながら取り組んでいる。どのように使えば効果的かいろいろな活用方法を実践しながら一番よいと思われる方法を見つけていきたい。 ・ICTを活用し、自ら進んで学びを深められるようにするとともに、小集団で行う授業を展開し、コミュニケーションの場を増やす。 ・生徒の情報モラルおよび使用についてのルールを守るなど、規範意識を高めつつ、使用場面を増やすことができるかどうか、今後検討、実践していく。 ・人権教育については、授業として主に道徳の時間において実践している。 ・実験のようすを動画にとり、振り返ってレポートにまとめるなど、理解を深めるための活用ができた。 ・1人1台タブレットを利用し、考えを共有する機会を増やした授業を行った。 ・デジタル教科書の教材を新しい単元の導入部分で活用し、理解を深めた。また、授業の振り返りでも利用した。 ・授業の中で、他社の人権を侵害するような言動が見られた場合は、その場で話題にし、指導をしてきた。また「女性」をテーマには道徳の授業にTTで入り、自分の経験を伝えたり、具体的な話をすることができた。しかし、人権教育の資料を活用するまでには至らなかった。 改善策：人権教育の資料の教材研究を行い、活用できる場面も見極め、利用できるタイミングで利用していく。 ・グループ学習の際に活用した。学びポケットを利用し、話し合いから発表まで、タブレット1つで授業を展開できた。 ・生徒に一人一台配布されたタブレットを活用して、相互鑑賞におけるプレゼンシートの作成を授業で行っている。画面を共有することにより、生徒は主体的な活動を促され、コミュニケーション能力を育む学習活動に結びつけている。 ・ALTと協力して、英語の授業中に言語活動を実施した。 ・道徳で人権について考える時間を設けた。「あなたにとって人権とは何か」自分の考えを話し合った。 ・生徒の学習状況、授業進行に合わせ、指導内容を検討しALTを活用することができた。 【改善策】 ・生徒自身がタブレットを活用し、より深い学びとなる授業づくりを行う。 ・デジタル教科書だけでなく、生徒自身がタブレットを活用し、深い学びが実践できる授業づくりを行う。 ・数学がものづくりの役に立っていることを伝えながら、生活に直結するような内容の学習やグループ学習などを増やしていく。 **※アンケート回答：304名　肯定的意見88.8%**	A	9	・一人一台タブレットを利用し、考えを共有する機会を増やした授業を行った。そのうえで他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指しているのはすばらしいと思う。 ・電子黒板を使った授業を参観したが、とても解りやすかった。中学からタブレットを使いこなしている子供達は将来電子ツールに困ることはないんだろうなぁーと感じた。 取り残される保護者は居ないのかなぁ～？とちょっと心配になった。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3					B	3	・教育内容に関しては深く評価できませんが、未だコロナ禍にありながら学校ではこれからのグローバル化に向けてのICT活用能力育成されている事はこれからの社会に対してすばらしいことだと思います。 また、人権教育についての道徳時間の充実等はこれからの時代必要不可欠であると思います。 ・ICTの活用についてはタブレットの導入当初、教員のみなさんにおいてとまどいがみられましたが、現在は比較的充実した授業を展開しているようにみえます。それはコロナ禍という特殊な環境下にある、ということも大きな要素ではありますが…。 ・もう少しで成果評価が4になります。「タブレット端末をきちんと使っている」生徒の肯定的回答の割合が前年度より13ポイントも上昇し、91．5になりました。巾広いタブレットの活用は増々重要になると痛感しました ・タブレット学習がより進んできたように感じます。生徒達も積極的に取り組んでいる様子が伝わります。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3					C		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		1:70%未満			D		
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	生徒アンケートで 「授業はわかりやすい。」 の肯定的回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満	4	【これまでの取組】 ・授業中、「考えをもつ」場面（＝主体的学び）と、「考えを深める」場面（＝対話的学び）を設定し、言語活動の活発化を図るようにしている。 ・面談等で必要な生徒に対して、補習の案内などを行った。 ・授業改善推進プランで分析した学年ごとの生徒の実態に合わせて、授業を展開させた。 ・補習に対する声かけを行うことが出来た。 ・学習カルテや独自でとったアンケートをもとに、生徒1人ひとりと面談を行い、数学の分割クラスの希望を聞いたり、勉強方法や目標等を話し、指導した。 ・補習を受けた方がよい生徒に対しては、個別で声をかけた。また、補習の先生ともコミュニケーションを密にとり、授業との進度を合わせながら、生徒1人ひとりの様子の把握に努めた。 ・主体的、対話的学びの時間を多めにもうけ、学期の間で3回以上、グループ学習の時間を設けた。 ・改善プランを意識して教材の選定を行った。 ・言語活動を単元の中で必ず実施する時間を設けた。 ・補習希望生徒に対して、学習補助員よる補習が適切に行われており、学習の手当を必要とする生徒に引き続き参加を呼びかける。 ・「主体的・対話的で深い学び」については、授業内容をさらに検討し、実施していく。グループ活動や発表の場を多く設けている。 【改善策】 ・学習カルテそのもののをどのように効果的に扱うのかは学校として検討していく必要がある。 ・1学期に1度だけしか実施できなかった。学期に1度実施、を目標にする。 ・補習の先生とのコミュニケーションを密にして、補習の取り組み状況なども伺い、個別で声かけを行っていくようにする。 ・自分の達なりの答えを見つける活動や、日常生活との絡みを含めた題材でグループ学習の時間が設けられるようにすること。 ・授業改善プランにおける、主体的な調べ学習の活動はさらに推進していく必要がある。やはり、タブレットによる学習活動を充実させ、主題について調べた内容をグループで共有することにより、作品制作の構想を豊かにすることができるような指導を実践していく。 ・「主体的・対話的で深い学び」については、授業内容をさらに検討し、実施していく。 **※アンケート回答304名　肯定的意見90.6%**	A	10	・算数、数学到達度を児童、生徒、保護者に知らせたうえで、学習補助員等による補習を実施するのは、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法についての指導ができて有効と思う。 補習の先生とのコミュニケーションはだいじで、補習の取り組み状況なども把握しておくのはだいじなことと思う。 ・補習授業を覗く機会があった。先生が個々に指導されて、とてもてあついなぁと思った。 ・デジタル化進む中において、不足するコミュニケーションをもとに個人面談したりOJTによるICTの研修で教員のスキルアップにより生徒の家庭での「学びの保障」は児童生徒・一人ひとりにとり非常に良い事だと思います。 ・補習授業や分割授業はとても大切。生徒を取り残さない取組みが公立学校の最大の使命だと思います。 ・この項目では評価4を死守しました。学力の向上は巾を広く取り全体の押上が必要ですが先生方の取組はすばらしいです。 ・『「授業中、「考えをもつ」場面（＝主体的学び）と、「考えを深める」場面（＝対話的学び）を設定し、言語活動の活発化を図る』はとても大切なことであると感じました。生徒達の学習意欲も高まり、活発な授業が行われているのではと想像できます。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2		3:80%以上			B	2	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4					C		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		OJTによるICTの校内研修を行って、教員のスキルアップを図り、生徒の家庭での「学びの保障」を行う。	4:全教員が家庭でICTを活用した学びの保障を行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4					D		
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	生徒アンケートで 「学校のきまりや社会のルールを守ってる。」 の肯定的回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	【これまでの取組】 ・人権教育プログラムを読み合わせる研修を継続している。 ・学年で、生徒に何か変わったところがあれば小まめに情報共有し組織的に対応できるように努めている。引き続き、学年で組織的に対応できるようにしていきたい。 ・不登校対策としては、組織的に対応できているので、外部機関との連携を密にしていくことがさらによいと思われる。 ・人権プログラムを読み、それぞれの課題について考え、自身の人権感覚を高めた。 道徳、総合的な学習の時間を利用し、生命尊重の重要性や、社会問題に関する意識の向上を授業を通して伝えている。 ・小学校の先生方と議論したことを踏まえ、授業に生かした。電子黒板の利用方法など、勉強になることばかりだった。 ・学年間での情報共有を密にし、スピード感をもって対応した。 ・忘れることなく、毎回必ず取り組んだ。 ・生徒の日頃の変化を見逃さないように、日々のあらゆる教育活動を通じて生徒の見守りを行ってきた。生徒の些細な変化や問題が生じた時は、生活指導部、学年教員、管理職の先生方、養護教諭、スクールカウンセラー等に報告をし、情報共有して組織的な対応を実践できた。 ・人権教育プログラムを毎月熟読することにより、人権課題を常に意識することができた。教員間で意見も共有することにより、人権課題に関する視野も広げることができた。生徒と接する時もそれらを意識することができ、教育活動に効果的であるので、引き続き人権プログラムを読み込み、意見共有することを実践していきたい。 ・学校いじめ防止基本方針に則って、からかいなどいじめにつながる可能性のある行為を発見した場合は速やかに報告し、情報を共有することが課題である。生活指導部会や学年会での周知を徹底する。 ・学校生活の様々な場面で、ルールやきまりの話を生徒に伝えた。引き続き、これらのことを意識して、誰もが気持ちよく生活できるよう支援していく。 ・人権課題のテーマを設定し人権プログラムを読み、職員間で共通理解を図った。性同一性や女性問題についても考えていく。 ・定期的に校内委員会を行い、不登校生徒の対応や不登校気味の生徒に対してどのようにアプローチするか校内委員会で検討した。 ・人権について人権教育プログラムを読んで理解を深め、授業でも活用した。 【改善策】 ・校内で道徳の授業力向上についての研修を実施する必要があると感じた。 ・ストレス症状の見られる生徒や、問題行動・不登校の生徒に対して、学年で情報を共有し、組織的に対策を行った。今後は、進級のクラス分けに向けて、情報を整理していく必要がある。 **※アンケート回答304名　肯定的意見：90.8%**	A	9	・変わったことがあれば小まめに情報共有し組織的に対応できるよう努めていることはすばらしい。 不登校対策としては、組織的に対応できているとはすばらしい。 定期的に校内委員会を行い、不登校生徒の対応や不登校気味の生徒に対してどのように接するか検討することは重要である。 ・地域住民として数多くはありませんが学校での参観や校外での生徒のマナーはルールを守り、「あいさつ」もしっかりしています。 しかし最近の社会問題は「いじめ」が増え、特にIT化が進む社会でITを使用した「いじめや事件」にも益々注意が必要と思われます。 ・"いじめ"は人権問題であるという意識を教員のみなさん、および生徒諸君ひとりひとりが強く持つことが大切。それは保護者や地域の人たちもまったく同じです。そして人権問題は「多様性を認めあう」こととほぼ同義であると感じています。 ・人権、道徳、不登校、いじめ等先生方が一生懸命に取組んでいる姿が目に焼きついています。高い評価で東中の誇りです。さらなる向上をお願い致します。 ・人権教育プログラムを読んでみたいと思います。内容が気になります。 『からかいなどいじめにつながる可能性のある行為』は日常的にあるそう…。見えてこない部分への対処がむずかしいなと感じます。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		3:80%以上			B	3	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		2:60%以上			C		
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4		1:60%未満			D		
		人権教育プログラムを活用し、自分自身の人権感覚を磨くとともに、人権課題について学び、正しい理解と認識を深める。	4:年間4回以上行った。 3:年間2～3回行った。 2:年間1回行った。 1:実施しなかった。	3							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	生徒アンケートで 「前年度より体力、　持久力などが向上した。」 の肯定的回答の割合	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	3	【これまでの取組】 ・「食育」の指導に関しては指導計画上の指導以外にも、機会があるたびに生徒へ対応を意図的にしていくことを学校全体で確認していく。 ・部活動を平日4日、土日1日行うことで、運動の推進を行った。 ・部活動において、他学年のつながりを意識しながら、共に体を動かす時間を用意している。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の話は、授業中や休み時間の生徒との会話の中で、月に1度以上は話をしている。 ・練習を継続することの大切さを伝えてきている。また、試合等を通して学んだことも多かったようで、積極的な姿勢が以前より見えるようになってきた。 ・給食指導では、残食を減らすために、配膳のときに量の調整をし、好き嫌いせずに完食するように生徒に声がけした。 ・学級活動や総合の授業で「望ましい生活習慣」について伝えた。引き続きこの大切さを伝えていく。 ・保健便りを活用し。早寝・早起き・朝ごはんを呼びかけて、意識啓発を行った。 ・フードロス対策として毎日残飯0になるように取り組んでいる。 ・定期的に特別支援学級の部活動を設定し、活動した。 ・部活動では、新型コロナウイルス感染防止対策を図りながら、校内の活動、大会への参加を行った。 ・「早寝・早起き・朝ご飯」などは、学年便りに掲載したり、保健便りの読み合わせを行うなどを行った。今後は。休み時間の様子を観察し、適宜声かけを行っていく。 【改善策】 ・学校として、食育についての取り組みを実践できないかを考える必要がある。 ・食育について、生徒に考えさせる場面を設ける必要があると感じた。 ・オリンピック・パラリンピックの感動から生徒の内発的動機を高め、自ら進んで身体を動かす習慣を身につけさせる。 **※アンケート回答数304名　肯定的意見：71.2%**	A	8	・部活動を規則的に続ける事の大切さがつたえられていると感じる。 「食育」の指導は学校全体で意図的に確認が必要。 ・体は食べた物でできているので、特にスポーツをやる子は「食」の大切さを学んで欲しい。 コロナが落ち着いて保護者に給食の試食をしてもらえる日が来るとよいと思う。 コロナ禍スポーツでも制約はある中で、東中では運動会をはじめ各種活動等色々工夫しながら体力向上に向けた活動に努力している事よく分かります。しかし、今後学校改築もあり、更なるスポーツ取り組みを期待します。 ・コロナ禍においては運動量が減っているのは大人の社会でも同様です。成長期にある生徒諸君には積極的に体を動かす指導をしてください。 ・この項目の肯定的意見が71．2%と最も低く成果評価も2に近い3である。 体力の向上と食育は密接な関係があることを再確認しました。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					B	4	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					C		
									D		
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	保護者アンケートで 「学校は学力の定着のために授業を工夫している。」 の肯定的回答の割合	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	【これまでの取組】 ・年間計画に基づいて、計画的に校内研修を進めている。 ・主体的な学習の授業展開の研修会に何回か足を運び、自身の授業実践に生かした。 ・より良い教育を行っていくため、積極的に研修に参加し、自己を高めていく。 ・授業評価を授業改善に活かすことができた。 ・授業改善セミナーにおいて、初任者の模擬授業を拝見し、意見交換をして、学びの多い充実した研修であった。 ・授業や学活、事務的な業務で助言等はすることがあった。 ・保護者の方からいただいた評価を振り返り意識した。 ・授業参観を定期的にしていただいた。 ・研修委員会で講演をしていただいた。 ・生徒の情報共有は教員間で定期的に行われている。 ・中堅研修や校内研修などで得たことを生かし、授業改善をすることができた。 【改善策】 ・グループ学習の効果的な評価方法の構築を目指したい。 ・今後は、主幹教諭や管理職の先生方と相談して校内研修等が実施できる機会を検討していく。 ・今後は、主任教諭の指導助言を、計画的に受けられるように場面を設定する。 **※アンケート回答数218名（「わからない」の回答を除く）　　肯定的意見：90.8%**	A	10	・魅力ある教育環境づくりを目標に、先生方が充実した授業をするために、いろいろな研修に参加して自身の授業実践に活かしたり、自己を高める努力をして下さり頭が下がります。 ・文化祭の時に先生方が生徒達の安全をとても気に留めてくださっていると実感した。 ・各行事は今年度もコロナ禍で回数と内容少ない中、学校も生徒皆さんも一生懸命頑張っている事は学校便りや楽内でも分かります。 それもこれも学校全体および関係者の工夫と努力があればこそと感謝します。 ・教員のみなさんの研修の実施に全面的に賛成します。 ・この項目も評価4でがんばっています。 先生方の積極的な教育研修が生徒の良好な教育環境に根づいています。アンケートの回答数が少ないのが気になります。 ・時代と共に授業の仕方、内容の変化を感じます。先生方の日々の努力がとても素晴らしいです。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		3:70%以上			B	2	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3							
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					C		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		1:60%未満			D		
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	保護者アンケートで 「学校は教育活動の推進について地域の協力を得ている。」 の肯定的回答の割合	4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	【これまでの取組】 ・年間数回の地域教育連絡協議会において、学校と地域の間で情報提供や情報共有を図っている。 ・子どもがより良い方向へ成長していけるように地域・家庭との連携を深め、成長を促す。 ・保護者会などを通して生徒の普段の様子、活動を細かく伝えている。 ・教育目標と学校経営方針は週案の先頭ページに貼り付けてあり、いつでも見れるようにしてある。常に意識して、よく目を通すようにしている。 ・生徒の活動情報は学年だよりで発信する程度であった。 ・学校支援地域本部の活動に土曜補習教室の運営を加えた。 ・学校支援地域本部の活動が、計画的、継続的に運営されており、本校の環境整備の一翼を担っている。 【改善策】 ・地域や家庭と連携して教育活動が行われている。コロナの影響もあり、実施できていないものもあるため、状況が改善された後により連携して教育活動を行って行きたい。 ・HP情報の更新について、教職員へ「更新したこと/内容」などを伝えられると良い。 **※アンケート回答数292名　肯定的意見83.4%**	A	10	・地域教育連絡協議会において学校側も地域側も情報共有を図っている。 学校側と地域との連けいは子どもを育てるのにたいへんだいじと思う。 ・コロナ禍の中であっても地域（青少対）の行事に参加して頂き、大変うれしかったです。ありがとうございました。 ・まだまだコロナ禍ですが地域の行事に三味線部、チア部が参加できてよかった。 学校の改築がいつからなのか？心配されている地域の方もいらっしゃるので、少しずつお知らせしていただけると安心です。 ・今年1年、学習に関しては深く分かりませんが、3年目のコロナ禍で地域でも多くの行事活動が中止、延期・縮小となり、生徒・学校・地域と非常に少なく寂しい1年でした。 私達大人以上に生徒の皆さんはもっと寂しく辛い1年だった事でしょう。 来年はこのコロナが収束し、学校・家庭・地域が一体となって多くの活動が出来るよう祈ります。 ・学校HPが当初に比べるとずっと充実してきました。学校からの情報発信をこれからもさらに充実させてください。 併せて、スマイルサポート（東中学校支援地域本部）のHPも充実させてください。 ・新型コロナ影響で地域の活動が制限され,学校との情報交換が少なくなりました。防災訓練は学校と地域が一体となって活動出来るので積極的に行っていきたい。 ・HPをあまり見ていませんでした。今後月1回はアクセスしてCheckいたします。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4					B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3		2:60%以上			C		
						1:60%未満			D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。